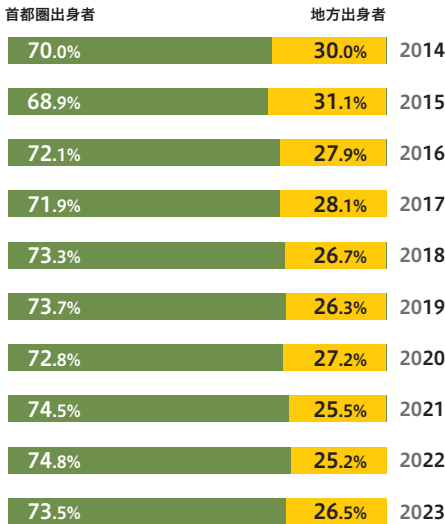
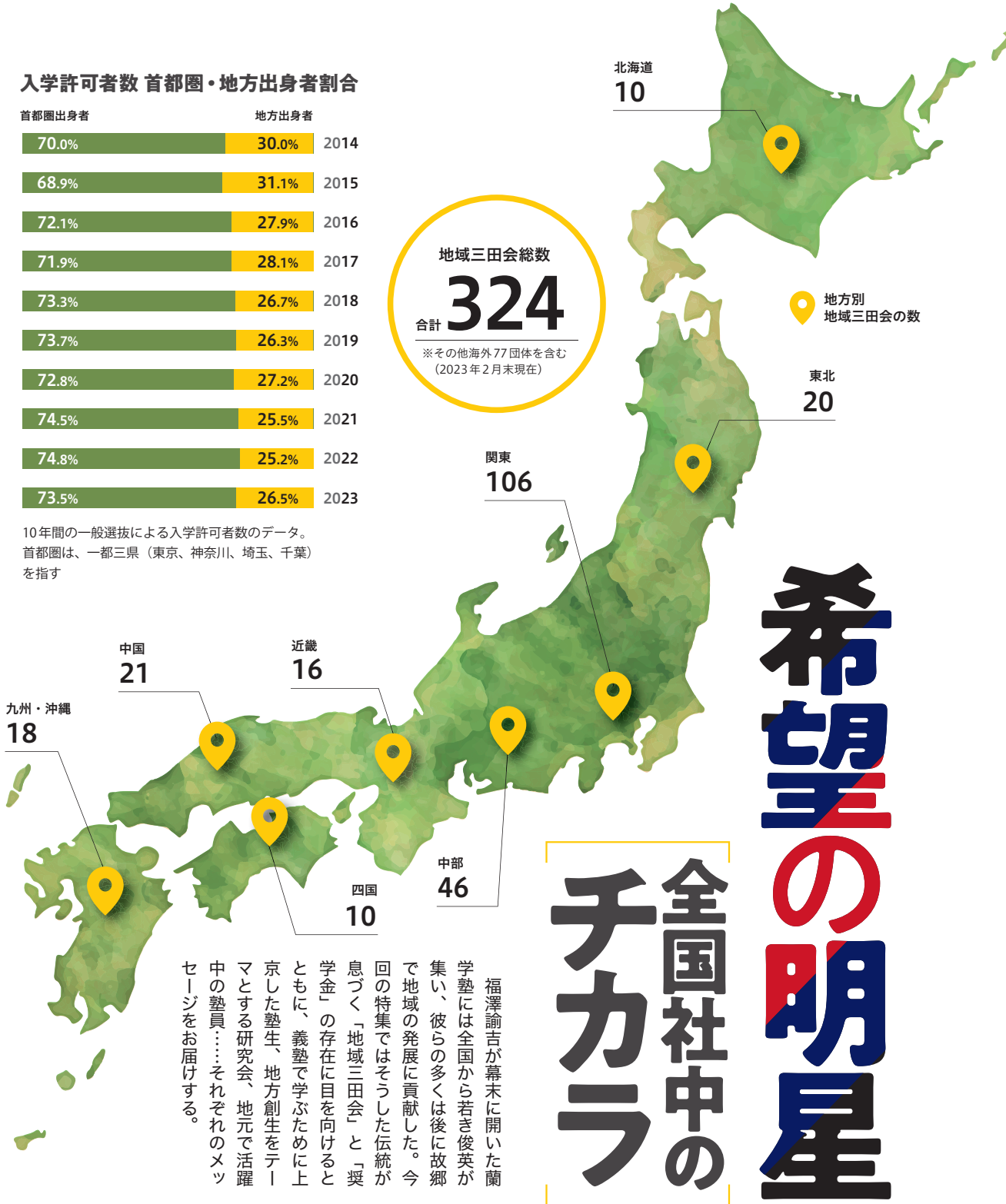


## 入学許可者数 首都圏・地方出身者割合



10年間の一般選抜による入学許可者数のデータ。  
首都圏は、一都三県（東京、神奈川、埼玉、千葉）を指す



# 希望の明星

# 全国社中のチカラ

福澤諭吉が幕末に開いた蘭学塾には全国から若き俊英が集い、彼らの多くは後に故郷で地域の発展に貢献した。今回の特集ではそうした伝統が息づく「地域三田会」と「奨学金」の存在に目を向けるとともに、義塾で学ぶために上京した塾生、地方創生をテーマとする研究会、地元で活躍中の塾員……それぞれのメッセージをお届けする。

## 地域三田会

慶應義塾大学の卒業生は「塾員」と呼ばれ、その数は約40万人。卒業後も多くの塾員が共に学んだ友人や恩師、そして、母校とのつながりを大切にしている。塾員同士の結束・連帯感、そして塾員と義塾のつながりの強さは大きな特色であり、誇りと言える。こうした塾員同士のネットワークが慶應義塾らしさを形づくるのではないだろうか。

中でも特徴的なのは、塾員有志が自発的に集い運営している「三田会」だ。塾員同士の強い絆を象徴する義塾ならではの同窓組織であり、多種多様な三田会を「慶應連合三田会」が包括している。卒業年による「年度三田会」、企業単位や業種で結成される「勤務先・職種別三田会」などがあり、国内外の地域ごとに設けられたものが「地域三田会」だ。全国各地で多くの地域三田会が活動しており、海外を含め、その数は324にも上る。

これらの三田会は、塾員同士の交流・親睦を深めるだけでなく、塾生に対して奨学金を設置したり、一貫教育校の教育事業に対する物心両面での支援、慶應義塾の維持運営のために寄付を行う「慶應義塾維持会」への支援など、さまざまな形で協力を行っている。慶應義塾での学びは、これから国内外に広がる義塾社中のチカラによって支えられている。



慶應連合三田会大会の様子

## 奨学金の種類

慶應義塾では塾生が経済的な理由で勉学の機会を失うことのないよう、返済不要の給付型奨学金の拡充を図っている。首都圏以外出身の受験生を対象とした入学予約型奨学金「学問のすゝめ奨学金」をはじめとして「慶應義塾維持会奨学金」、「慶應義塾大学給費奨学金」など、多くの奨学金を用意している。

また、三田会などによる指定寄付奨学金が数多くあるのも、卒業生とのつながりの強い慶應義塾ならではの特徵だろう。こうした指定寄付奨学金は、支援してくださる多くの方々からの寄付金によって運営されている。

これらの学内の給付型奨学金制度による奨学生は、年間のべ約1100名（2022年度学部生実績）にも上り、多くの塾生が学びの機会を得ている。

塾生サイトに掲載されている指定寄付奨学金の一覧。三田会が設置する数多くの奨学金がある



指定寄付奨学金	対象	支給金額(円)	給付学生人数
三田会三田会給付奨学金	学部	給付内	3
三田会三田会給付奨学金	学部	給付内	3
三田会三田会給付奨学金 (奨学金給付金)	学部(奨学金)	給付内(奨学金)	3
三田会三田会給付奨学金	学部(奨学金)	給付内	3
2009年度三田会給付奨学金	学部(奨学金)	給付内	数不定
2008年度三田会給付奨学金	学部(奨学金)	給付内	数不定
六人村三田会奨学金	学部・大学院	給付内	3
鶴岡三田会奨学金	学部(奨学金)・大学院(奨学金)	給付内	30
神田三田会奨学金	学部(奨学金)・大学院(奨学金)	給付内	2
新井三田会奨学金	学部(奨学金)・大学院(奨学金)	給付内	3
山崎三田会奨学金	学部(奨学金)・大学院(奨学金)	給付内	2
高橋三田会奨学金	学部(奨学金)・大学院(奨学金)	給付内	2
藤原三田会奨学金	学部・大学院	給付内	2
大野三田会奨学金	学部	給付内	3
東山三田会奨学金	学部・大学院	給付内	2
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	3
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	3
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	2
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	2
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	3
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	3
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	2
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	2
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	3
三浦三田会奨学金	学部・大学院	給付内	4
三浦三田会奨学金	学部(奨学金)	給付内	数不定

故郷を離れて  
慶應義塾で学ぶ  
私たちが考えていること



- 大阪府大阪市出身  
坂本悠愛君 2年 (写真右)
- 岡山県倉敷市出身  
城山寛介君 2年 (写真中央)
- 宮崎県宮崎市出身  
宮原すず君 4年 (写真左)



した。坂本さんのご両親は東京に行くことに反対しませんでした？

坂本 私の場合、埼玉に親戚の家があるので、そこから通学することを条件に許してもらいました。日吉は少し遠くて通学が大変ですが、文学部は2年生から三田になって楽になりました。

城山 私はできるだけ親に負担をかけたくなかったの  
で現在は奨学金を利用しながら学んでいます。当初は大学へ進学するかどうか

私たちが慶應義塾を選んだ理由

宮原 私は生まれ育った宮崎が大好き。高校生のときに「政治家になって地域に貢献しよう！」と、多くの政治家を輩出している慶應義塾に進学しました。三田キャンパスの説明会に行き、ますますその気持ち募って法学部政治学科に入学しました。

坂本 私も宮原さんと同じく地元を盛り上げたい気持ちがあります。そのためには多くの人との出会いを通して自

分を成長させたいという思いがありました。心から「すごい！」と思える人  
にたくさん出会える大学はどこだろう？と、受験にあたって白羽の矢を立てたのが慶應義塾。実は、私の出身  
高校から慶應義塾に現役合格した生徒は私が初めてでした。もう、絶対合格  
しよう！と受験勉強をめっちゃめちゃ頑張りました。

宮原 両親から「(進学先は)せめて関西の大学にしなさい」と言われていたのですが、最後には同意してくれま

試問題」。私は文学部の自主応募制による推薦入学者選考でしたが、過去問に感動してしまったのです。なぜならそこで問われているのは単なる英語の知識だけではなく、その先の言語運用能力だったから……。もともと私は言葉に強いこだわりを持っていて、過去問を解きながら「東京へ行きたい」ではなく「慶應義塾に行きたい」という気持ちの方が強くなりました。

坂本 慶應義塾に入學して本当に良かったと思うのは、期待通り高め合い、熱く語り合っ



たくさん出会えたこと。学問だけではなく、積極的に社会との関わりを持つ学生も多く、私はさまざまな社会格差に悩む人々をサ

ポートする学生団体に所属し、現在は代表を務めています。城山君は起業しましたね。

**城山** ええ、ビジネス学生団体の慶應ビジネスコミュニティ(KBC)が主催するビジネスコンテストに参加したことで知り合ったメンバーと「SNS運用」AO(総合型・学校推薦型選抜)入試専門塾」という2つの事業を手掛けています。在学中は言葉とともに自分でビジネスを創り上げることにこだわりたいと思っています。

**愛する故郷のために今ここで頑張る**

**宮原** 入学以来、日吉にも三田にも通学しやすい学生寮で暮らしています。入学したのはコロナ禍が始まった2020年。4月時点で女子の入寮生は私一人で、入学当初はずっとリモート授業でしたが、学生寮での生活で救われました。先輩や留学生に囲まれて毎日

城山 うらやましい。私は塾生が多い学生マンションで暮らしていますが、本当は学生寮に入ってみたかった。ところで宮原さんは今でも政治家志望ののですか？

**宮原** 実は入学してから地域社会論など社会学系の勉強に関心が移って、今は政治家を目指しているわけではなく、気持ちはまだ強くあつて、大学院に進学して地域社会に関する調査や研究を深めたいと考えています。

**城山** 私も大学院進学を考えています。宮原さんはなぜ大学院に進学しようと考えたのですか？

**宮原** まだまだ学びたい気持ちがありますし、4年生になって大学院の授業を履修しているのですが、一緒に学んでいる院生の方々との議論がとても楽しくて、迷わず進学を決めました。



**坂本** 私も当面は東京で頑張りたいと思っていますが、いつかは生まれ育った大阪のために働きたいと思っています。特に女性が生き生きと活躍できる大阪をつくりたい。東京は突出した人

材がたくさんいる半面、大阪のような人のつながり「コミュニティ」感が薄い。両方の良いところを生かせるような社会が私にとっての理想ですね。

**城山** 実は先ほどお話ししたKBCのビジネスコンテストで、私は自分の故郷・倉敷を想定しながら、坂本さんが話された「地方社会の人のつながり」を復活させる民間ビジネスのアイデアを提案しました。もし私に何か協力できることがあれば、お声がけください。  
**坂本** ぜひぜひ！

**城山** やはり慶應義塾の良さは「人のつながり」ですからね。私ができることを実感したのは夏休みの帰省時でした。地元の三田会の集まりに誘われ、地域社会におけるそうそうたる大先輩の方々のご縁を結ぶことができ、「自分も頑張ろう!」と決意を新たにしました。

**宮原** 私も故郷が大好きなのでよく帰省しますが、そのたびに考え方や感じ方など自分の「変化」を意識します。そしてその変化は「成長」なのだと思います。この4年間で「成長」を糧に「故郷・宮崎に必要とされる人間」を目指して経験を積みみたいと考えています。



02

## 躬行実践を目指して



総合政策学部  
教授  
飯盛義徳  
いさがいよしのり

大学は地域を元気にすることができ  
る。この思いは年々強くなっている。

2023年度、湘南藤沢キャンパス（SFC）の飯盛義徳研究会には約40名の学生が所属。授業では、地域づくりの本質を探究するために、レクチャー、ケースメソッドやワークショップなどによる議論、輪読などを融合し、PB L (Project Based Learning) と結びつけるブレンドッド・ラーニングを導入している。毎年夏には、地域の課題解決を目指すフィールドワーク合宿を実施。最終日には自治体や住民の方々と一緒に提言を発表する。その後、その提言を実行するために「○○元気づけプロジェクト」（○○は地域名）を立ち上げる。今まで、福岡県八女市、三重県尾鷲市、石川県金沢市、埼玉県白岡市、品川区大井町、北海道鷹栖町など、15以

上の元気づけプロジェクトを展開してきた。

活動分野は、観光振興、商店街活性化、居場所づくり、人材育成、コミュニケーション、FM番組制作、ケース教材開発など幅広い。通底しているのは、「プラットフォーム」という概念だ。地域づくりにおいては、さまざまな人や組織のつながりを形成して、相互作用を促進する基盤、すなわちプラットフォームをいかに効果的に設計するかが大切なポイントになる。その手立てを探ることが研究会の中心テーマなのである。

元気づけプロジェクトには、地域、大学双方に佳処があると実感している。地域も世代も異なる学生たちのユニークな視点は、地元の方々が気付いていない資源を見出す端緒となる。また、特産品開発や居場所づくりなど地域主導の新しい活動を生み出す契機となることもよくある。学生たちが媒介となって地域内外の人々のつながりが新しく形成されることも効果の一つだろう。最近では、活動していた地域の歴史や

文化、地元の人々に魅せられて卒業と同時に移住する学生や、地域おこし協力隊員として活躍する学生たちも現れた。一方、学生たちの真摯な活動に接して、慶應義塾のファンになってくださる方も数多い。

大学にとっては、実践知の創造につながる大きなことだ。

学生たちは、大学で学んだ知を実践に生かして、その結果をフィードバックして理論モデルの精緻化に挑んでいる。福澤諭吉は、『学問のすゝめ』十二編において、「学問の要は活用にあるのみ。活用なき学問は無学に等し。」と説いた。これから「活用ある学問」の構築に向けてもっと精進を重ねていく。今まで各地の三田会の方々にはさまざまな支援をいただき、心から感謝している。今後は、社中協力によりさらに地域から社会を元気にする流れを築き上げたいと願っている。



千葉県香取市佐原でのフィールドワークの様子



株式会社熊本放送  
アナウンサー  
2020年総合政策学部卒業  
後生川凛君  
ごしよがわりん

慶應義塾大学卒業後、熊本放送に入社し、アナウンサーとして4年目。現在、18時台のニュースワイド番組で月々木曜日の司会を務めています。この番組ではアナウンサーも現場取材から原稿作成、VTRづくりまで手がけます。スタジオでは取材の成果を踏まえ、短い時間でも私ならではのコメントができるよう工夫を重ねる毎日です。番組で広く顔を覚えてもらえるのもこの仕事ならではのことで、どこに取材に行っても声をかけられ、時には「後生川さんの娘さんだね」と両親の知り合いと出会うこともあります。

小さい頃からアナウンサーに憧れていました。その夢を実現するためにはアナウンサーの先輩が数多くいる慶應義塾大学に進学するのが近道と考え、総合政策学部に進学しました。



番組収録のスタジオにて

マネージャーとして慶應義塾体育会野球部に入部したのは私自身が野球が好きだったこともあり、慶應野球ファンの母の後押しも大きかったです。野球部のマネージャーの仕事はかなりハードでしたが、チームの勝利は苦勞に勝る大きな喜びでした。2年生になって、現役部員と社会人チームで活躍するOBの混合チームが対戦する「オール早慶戦」が地元・熊本で開催されたことはうれしかったですね。そして最終学年で東京六大学

野球と明治神宮野球大会で優勝を果たし、これ以上ない有終の美を飾ることができました。

野球部OBで昨年から部長を務められている加藤貴昭教授の研究室（人間工学）で他の野球部員と共に学んだことも良い思い出です。現在、福岡ソフトバンクホークスで活躍する柳町達選手は野球部の同期。アナウンサーになつてからリポーターとして彼にインタビューする機会があり、お互い夢をかなえての再会はとてうれしかったです。

慶應義塾に進学して良かったことは、心強い仲間や先輩方と多く知り合えたことでしょう。就職活動でも、社会人になつてからも、義塾の絆を感じる機会が多く「熊本を出て、慶應義塾で学んで良かった」と心から思います。同時に就職して熊本に戻り、美しい風土と温かい県民性を再認識することができました。熊本と慶應義塾。私にとってどちらもかけがえない「ふるさと」です。